

平成25年7月29日

広島大学原爆放射線医科学研究所が  
新たな被爆関連資料（調査票）を発見しました

〔研究機能〕

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部は、新たな被爆関連資料を発見しました。

発見したのは、昭和22年6月に行われた「原子爆弾災害調査」（※）に関する調査票21人分（42枚）で、ケロイドに関する検診結果が示されています。被ばく資料調査解析部の資料室にて資料の整理中に発見しました。本資料は、原子爆弾災害調査団から渡辺漸教授（原医研初代所長）に渡されたものと思われ、平成3年4月に横路謙次郎教授（渡辺教授の後任）から原爆放射線医科学研究所附属国際放射線情報センター（被ばく資料調査解析部の前身）に移管されました。

昭和22年6月に「原子爆弾災害調査」の一部としてケロイドに関する調査が行われたことはすでに知られており、その調査票も広島市公文書館に「都築正男資料」として保管されています。しかしながら、今回発見した調査票は、公文書館が保管しているものとはフォーマットが異なり、記載内容も詳細であることから、「原子爆弾災害調査」に付随して行われた詳細な検診結果だと推察されます。本資料は、戦後早い時期の原爆後障害に関する詳細な調査結果であるとともに、原爆災害に関する調査史の一端を示すものとして資料性が高く、貴重なものであるといえます。今後は、本資料を被爆の実態解明（例えば、被爆距離や遮蔽状態とケロイドの状態などの考察）のために活用していきたいと考えています。

広島大学は、原子爆弾および放射線による被災に関する情報の調査ならびに資料の収集、整理、保存および解析を継続して行うことにより、被ばく医療に関する学術研究の進展に寄与してまいります。

なお、本資料は平成25年7月30日から8月13日まで、本学霞キャンパスにある医学資料館にて展示します。

※「原子爆弾災害調査」

調査団：日本学術研究会原子爆弾災害調査研究特別委員会医学科会 9名  
（代表：都築正男）

調査目的：原子爆弾の後障害の把握

実施時期：昭和22年6月18日～30日

実施場所：広島県立中央病院

主な調査内容：血液、ケロイド、男性の性機能、白内障の4点

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部

担当：佐藤 裕哉

TEL：082-257-5877 FAX：082-257-5878

E-mail：kohosha@hiroshima-u.ac.jp

URL：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/khosha/>